

執筆担当：斎藤登美夫

25/03/12

そして、もうひとつの「驚き」がココから先にも。

なお、理由を尋ねてみると幾つかあったのだが、もっとも大きいものはやはり米国の輸入インフレ。そしてそれにとまなう米国の高金利継続がドルを強く支えるとの見方になる。また、それとは別に米国が高金利を維持する反面、「日本への金利引き上げ圧力がさらに強まる」可能性があることも指摘されていた。正直、筆者はそうした見方に与しない。しかし、可能性としては否定しきれものではないだろう。いわゆるトランプ関税をめぐる動きの着地点がどこになるのかが判然としない。事実 11 日のカナダに対する「トランプ関税」関連ニュースを見ても内容や対応が二転三転しており、予測はほぼ不可能。米国を中心とした政治相場の行方如何では、確かに現在のようなドル安・円高の流れが一転する危険性を秘めているのかもしれない。(了)

▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の**無断転載・転送**もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。